



2012年3月期 第2四半期決算説明会

株式会社アイネット

2011年11月25日

東証1部
証券コード 9600



1. はじめに

2. 第2四半期業績概要

3. 経済・業界環境

4. 通期業績予想

inet 会社概要(2011年9月30日現在)

- 商号 株式会社アイネット
- 設立 1971年4月22日
- 本社 横浜市西区みなとみらい3-3-1
- 資本金 3,203百万円
- 代表者

代表取締役会長 池田 典義
代表取締役社長 梶本 繁昌

- グループ会社

(子会社) 株式会社ISTソフトウェア
株式会社アイネット・データサービス

(関連会社) 株式会社ラネクシー

- 社員数1,443名(連結)
959名(単独)

事業所／支店／データセンター

東京事業所 札幌支店、仙台支店、中部支店、
大阪支店、中四国支店、福岡支店、
第1データセンター、第2データセンター





1. はじめに

2. 第2四半期業績概要

3. 経済・業界環境

4. 通期業績予想

inet 2012年3月期第2四半期業績概要(連結)

(単位:百万円・%)

	2011年3月期-2Q		2012年3月期-2Q		前年同期比
	金額	比率	金額	比率	増減額
売上高	9,944	100.0	9,971	100.0	+26
売上原価	7,705	77.5	7,579	76.0	△125
売上総利益	2,239	22.5	2,391	24.0	+151
販管費	1,915	19.3	1,888	18.9	△27
営業利益	323	3.3	502	5.0	+178
経常利益	296	3.0	440	4.4	+143
税引前利益	214	2.2	399	4.0	+185
当期純利益	51	0.5	166	1.7	+115

inet サービス区分別販売実績・営業利益(連結)

(単位:百万円)

	2011年3月期-2Q		2012年3月期-2Q		増減額	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
					金額	金額
情報処理サービス	3,573	189	3,738	271	① +164	+82
(営業利益率)	—	5.3%	—	7.3%	—	+2.0%
システム開発サービス	5,985	120	5,797	207	② Δ187	+87
(営業利益率)	—	2.0%	—	3.6%	—	+1.6%
システム機器販売	385	14	435	23	+49	+9
(営業利益率)	—	3.6%	—	5.4%	—	+1.8%
合計	9,944	323	9,971	502	+26	+178
(営業利益率)	—	3.3%	—	5.0%	—	+1.6%

(主な要因)

①データセンター及びクラウドサービス売上高が順調に増加し増収増益

②震災による企業のIT投資抑制の影響で売上高が減少したものの、マネジメント強化により増益

(注)営業利益については当社独自の簡便法で作成しており、数値は参考値(目安)とさせていただきます。

(単位:百万円・%)

	2011年3月期末		2011年9月期末		前期末比
	金額	構成比	金額	構成比	増減額
流動資産	6,592	33.2	7,158	34.1	① +565
固定資産	13,270	66.8	13,802	65.9	② +532
繰延資産	7	0.0	5	0.0	△2
資産合計	19,870	100.0	20,966	100.0	+1,095
流動負債	5,200	26.2	5,919	28.2	+718
固定負債	6,348	31.9	6,713	32.1	+365
負債合計	11,548	58.1	12,633	60.3	③ +1,084
純資産	8,322	41.9	8,333	39.7	+11
負債・純資産合計	19,870	100.0	20,966	100.0	+1,095

(主な要因)

- ①現預金 310百万円及び売掛債権 123百万円の増加
- ②データセンター拡充等固定資産 1,011百万円の増加、一方で減価償却による減少(539百万円)
- ③設備投資等に伴う、有利子負債の 842百万円増加

inet キャッシュ・フロー計算書(連結)

(単位:百万円)

	2011年3月期-2Q	2012年3月期-2Q	前年同期比
	金額	金額	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	367	① 725	+357
投資活動によるキャッシュ・フロー	14	② △1,019	△1,034
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,282	③ 604	+1,886
現金及び現金同等物の増減額	△899	310	+1,209
現金及び現金同等物の期首残高	3,085	2,297	△788
現金及び現金同等物の期末残高	2,185	2,607	+421

(主な要因)

- ①[増加要因]利益・償却で内部留保 938百万円
- ②[減少要因]固定資産(データセンター拡充等)の取得 1,011百万円
- ③[増加要因]長・短期借入金の増加 842百万円
[減少要因]配当金支払 168百万円



1. はじめに

2. 第2四半期業績概要

3. 経済・業界環境

4. 通期業績予想

【2011年5月18日時点】

■ 東日本大震災《リーマンショックからの立ち直り途中に大きな4つ問題が発生》

1. 供給制約 サプライチェーンの寸断による部品不足、夏の電力不足
2. 原発問題 放射能による汚染被害・風評被害
3. 将来不安 国内企業の生産海外シフト、海外企業の部品調達先シフト
国家財政に対する不安と政情不安、TPP棚上げ
4. 消費マインド 自粛ムードから更に緊縮ムードになる恐れ
日本から外国人労働者の帰国や、外国人観光客の激減
震災対応不満による政治不信、復興に伴う増税など



【現時点】

■ 東日本大震災からの復旧進むが、海外景気の急激な減速で不透明感強まる

● 震災後の新たなリスク発生

1. 欧州起因による景気減速懸念
2. 超円高の定着
3. タイの洪水により製造業に打撃、世界的な生産調整(自動車・HDDなど)

震災復興の下支えがあるものの、新たなリスクの発生により
景気拡大ペースは当初予想より緩慢

【2011年5月18日時点】

■IT産業も持ち直し途中に東日本大震災発生で一段の低迷

- 2011年 国内IT市場は**12兆165億円**、前年比**△4.5%**と減少 (4/18 IDC-Japan)
- 震災復旧の優先順位はハードを優先
- ソフトウェアの新規開発は低迷

■ITトレンドは

- IT投資効率の向上にクラウド利用へ
- ユーザーは地震、停電回避で
データセンターへサーバ移設の流れ



【現時点】

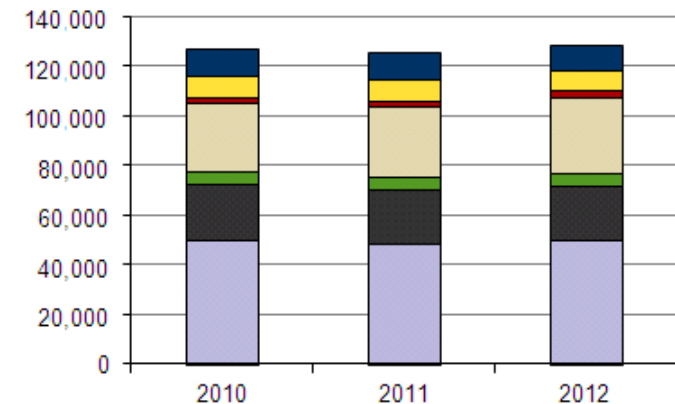
■東日本大震災発生で低迷後にやや持ち直しの兆し

- 2011年 国内IT市場は**12兆4,797億円**、前年比**△1.6%**
(10/25 IDC-Japan)
- スマートフォン・タブレットの普及などが牽引しマイナス幅縮小
- 震災で凍結されたIT投資が復活する見込み
- 2012年は復興需要による景気拡大を背景に**12兆8,307億円**、前年比**+2.8%**見込む
- 円高進行、タイ洪水影響で製造業に打撃あり・・・IT業界への影響も？

■ITトレンドは

- データセンターやクラウド利用への流れは更に加速！！**

(億円) 国内製品別IT市場規模予測、2010年～2012年



出典：IDC Japanプレスリリース
「国内製品別IT市場予測を発表（2011年10月）」
より 転載禁止

【2011年5月18日時点】

■ SS(サービスステーション*)の減少傾向

- SSは減少するものの石油需要は増加を予測
- 元売り各社は徹底したローコストオペレーションへ

■ 当社グループの状況

- 業界トップシェアの約20%を維持
- クレジットカード決済処理件数増加
- 元売・商社BIZへのアプローチを強化
- エクソンモービルのBPO案件が本格的に寄与



【現時点】

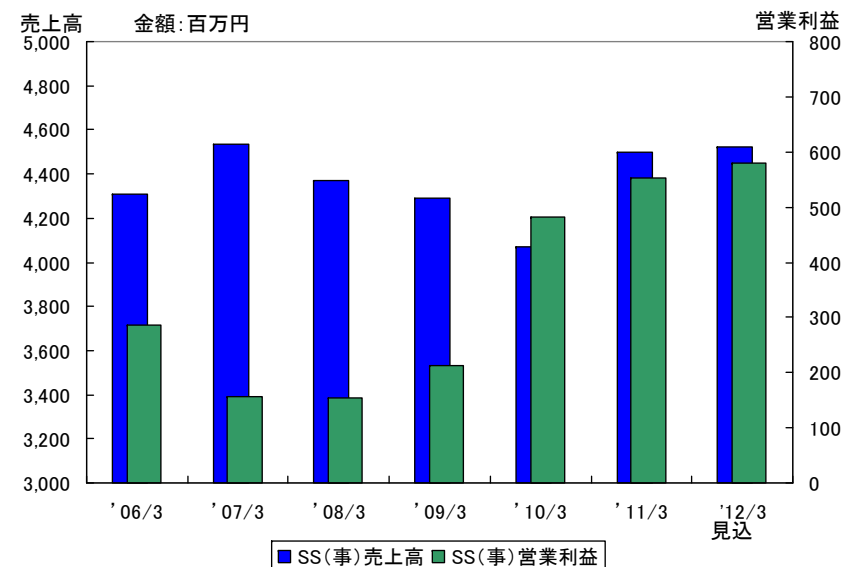
■ SS(サービスステーション*)は同トレンド

■ 当社グループの状況

- 元売・商社BIZへのアプローチを強化し案件増
- コスト削減から自社処理ディーラーも当社サービスへ
- SS部門は前年対比で増収増益達成、通期でも増収増益へ
- 今後はノウハウを活用し、クレジットカード非対面決済など新規ビジネスへの展開

※SS=サービスステーション=ガソリンスタンドのこと

当社SS事業部門売上高および営業利益



【2011年5月18日時点】

■ ノンバンク規制強化等で市場収縮

- 武富士、更生法申請で他社へ過払い金返還請求が拡大
- 改正貸金業法全面施行で各社は合理化を推進
- また、金融庁はリテールローンの受け皿を銀行へ誘導(総量規制対象外)

■ 当社グループの状況

- 現状の大手顧客を維持しつつ新規参入企業(銀行系)へアプローチ
- ノンバンクで培ったノウハウを核として他の金融フィールドへ展開
- 海外パートナーと中国市場への展開を模索中



【現時点】

■ 過払い金処理に一定の目処

- 過払い金処理は縮小傾向に向かう
- 銀行系大手は、高い利ざや・安定収益を狙う
- ノンバンク大手はアジアなど新興国市場の開拓を進める

■ 当社グループの状況

- 現状の大手顧客を維持しつつ新規参入企業(銀行系)へアプローチ
某銀行のリテールローンシステム(クラウド提供)は、現在カットオーバーに向け開発中
- 海外パートナーと中国市場への展開を模索中

【2011年5月18日時点】

■製造・制御

- 震災・原発問題でサプライチェーン停滞。生産・輸出減・生産落ち込み

■宇宙開発

- 「はやぶさ」等先端科学探査の成功や「HTVロケット」の安定的な打上げ

■当社グループの状況

- 制御系: 当面苦しい時期を迎えるが既存顧客から離れず復活に向け活動
- 3 D: 好調な車載系で収益を上げ、中長期は医療系やロボットへの転用も視野に



【現時点】

■製造・制御

- 当初予想より早く、一部サプライチェーン回復で生産は回復の兆し
- 世界経済の減速懸念や円高で顧客企業収益に影響
- 復興需要が見込まれるものの拡大スピードは緩やか

■宇宙開発

- 準天頂衛星の整備などに具体的な予算化がすすむ

■当社グループの状況

- 制御系: 震災影響あるも、**医療機器、防衛関係が好調**
- 宇宙: **はやぶさ2**など新規案件増加
- 3 D: クラウドサービスと連携し、**スマホやタブレットPCでの3D画像処理に展開**

【2011年5月18日時点】

■国内データセンターサービスは拡大中

- 2014年の市場規模は**1兆2,000億円超**
2010-14年のCAGR* 8.8% (10/10/13 IDC-Japan)
- 震災後は、地震・計画停電の影響により利用拡大

■当社グループの対応

- 顧客獲得多数。1年半で単月黒字に転換
- 特需：夏場の電力抑制に伴い商談活発化
※引合拡大期間に向け営業・サポートを増強



【現時点】

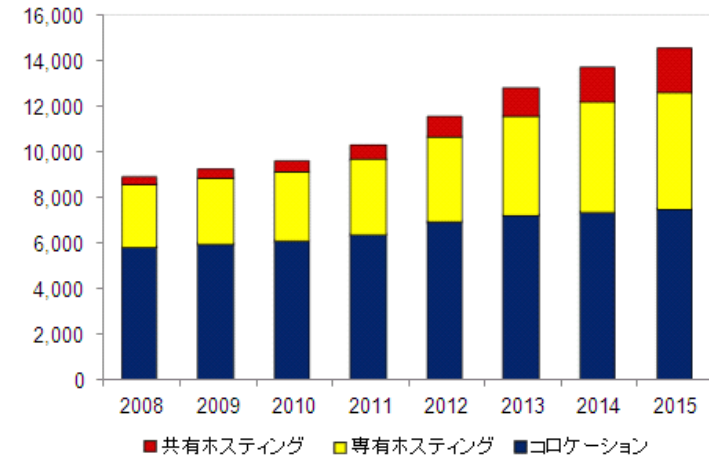
■国内データセンターサービスは災害対策強化でさらに拡大

- 2015年の市場規模は**1兆4,000億円超** (11/10/13 IDC-Japan)
- 2012年は企業ITの**災害やサイバー攻撃対策強化のため、更に需要拡大を予想**

■当社グループの対応

- データセンター設備を拡大 《次ページで説明》**
- 好調な引合い案件を受注すると共に、各種プロフェッショナルサービスを展開し
更なる高付加価値、高収益へ！

国内データセンターアウトソーシング市場
セグメント別投資額予測、2008年～2015年



出典：IDC Japanプレスリリース
「国内データセンターアウトソーシング市場予測を発表
(2011年10月)」より 転載禁止

*CAGR：Compound Annual Growth Rate／年間平均成長率

■データセンターの拡大について

- 第2データセンターの第Ⅱ棟の建設を前倒しで検討開始

I期棟(2009年竣工)は受注が好調で既に3分の2が受注済み。

今後のデータセンターの需要予測を踏まえ、更なるビジネス拡大に向け、当初の計画を前倒しする。

これにより当社全体での収容ラック数は約1,700ラック⇒約2,900ラックへ増強(予定)

2013年度中の稼働を目指す

建設予定



著作権の関係により
掲載は省略させていただきます。

日経産業新聞2011.6.10

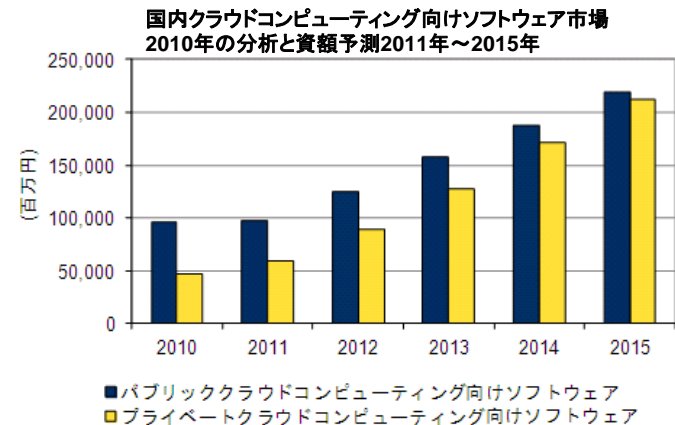
【2011年5月18日時点】

■国内クラウド市場は急拡大中

- IT資産を「持つから」「利用する」への流れが加速
- プライベートクラウド向けソフトウェアの市場規模は2015年2,707億円に成長
2010年～2015のCAGRは34.4%(11/4/7 IDC-Japan)

■当社グループの対応

- クラウドサービスに注力し売上利益拡大
Cloudstor™・VIDAAS™ など常に最先端商品を投入



Note: 2010年は実績、2011年～2015年は予測

出典: IDC Japanプレスリリース
「国内クラウドコンピューティング向けソフトウェア市場予測を発表(2011年10月)」より 転載禁止

*CAGR: Compound Annual Growth Rate/年間平均成長率



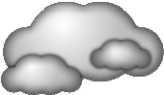











【現時点】

■国内クラウド市場は急拡大中

- プライベートクラウド向けソフトウェアの市場規模は2015年2,126億円に成長
2010年～2015のCAGRは35.2%
2015年には国内ソフトウェア市場の19%まで拡大すると予想(11/10/31 IDC-Japan)

■当社グループの対応

- VAiOSをベースにしたEASYCloud™が大きく成長／**上期で既に前年通期実績から倍増**
- 大手リセラーとの積極的アライアンスを展開による新規顧客を獲得へ
- 業種業態にとらわれない幅広い商品サービス**を取り揃え、新規顧客を拡大させ
更に、データセンター利用、システム開発、BPOビジネスに繋げる戦略！！

		2011年3月期		2012年3月期-2Q	
主要ビジネス	石油業 (販売店含む)	業界の景況感 	当社の景況感 	業界の景況感 	当社の景況感 
	金融業 (ノンバンク系)				
	製造業 制御・宇宙・				
	データセンター サービス				
注目	クラウド 仮想化				

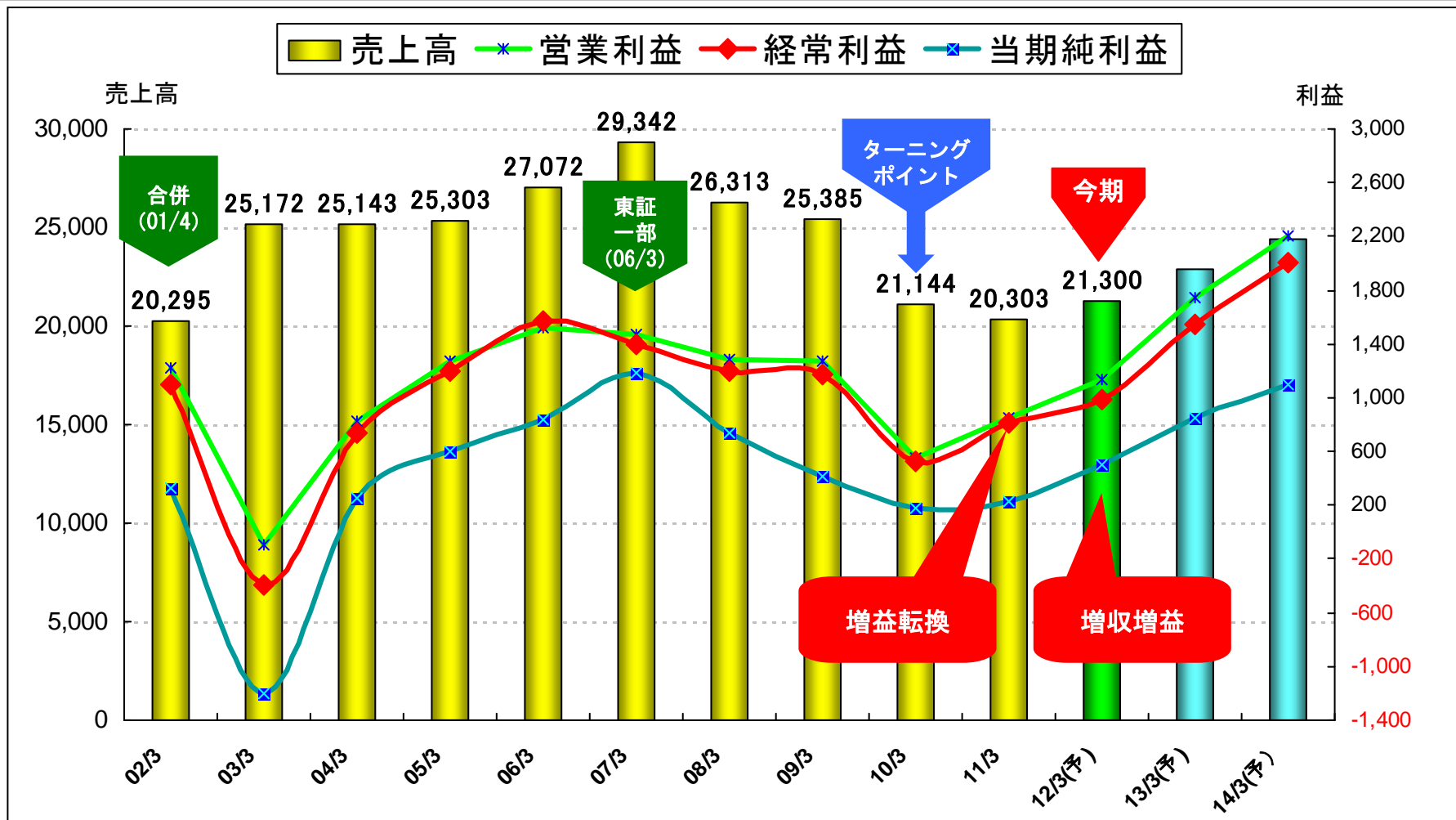


1. はじめに

2. 第2四半期業績概要

3. 経済・業界環境

4. 通期業績予想



企業規模拡大

選択と集中

サービス化加速

（単位：百万円・％）

	2011年3月期		2012年3月期		前期比
	金額	比率	金額	比率	増減額
売上高	20,303	100.0	21,300	100.0	+997
売上原価	15,744	77.5	16,440	77.2	+696
売上総利益	4,558	22.5	4,860	22.8	+302
販管費	3,706	18.3	3,730	17.5	+24
営業利益	852	4.2	1,130	5.3	+278
経常利益	812	4.0	990	4.6	+178
当期純利益	233	1.2	500	2.3	+267
1株当たり利益(円)	16.7	—	38.4	—	+21.7

inet サービス区分別 売上・営業利益予想(連結)

(単位:百万円)

	2011年3月期		2012年3月期		増減額	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
情報処理サービス	7,252	429	7,780	510	① +528	+81
(営業利益率)	—	5.9%	—	6.6%		
システム開発サービス	12,350	390	12,870	590	② +520	+200
(営業利益率)	—	3.2%	—	4.6%		
システム機器販売	700	32	650	30	△50	△2
(営業利益率)	—	4.6%	—	4.6%		
合計	20,303	852	21,300	1,130	+997	+277
(営業利益率)	—	4.2%	—	5.3%	—	+1.2%

①データセンターサービス、クラウドサービスが伸長

成長が見込まれる分野へ先行投資を継続するが増益

②震災の影響が懸念されるが、リテールローンシステム開発受注獲得で増収

上記売上増とマネジメント力強化・リソースの再配置によるコスト改善で増益

(注)営業利益については当社独自の簡便法で作成しており、数値は参考値(目安)とさせていただきます。

- 将来の資金需要に備え内部留保をしつつ
安定配当を継続実施

1株当たり年間配当金の計画
2012年3月期(予定) 20.0円
中間10.0円は既に取締役会で決議済み
(2011.12.5より支払開始)



本日はご多用中にもかかわらず、説明会にお越しいただき誠にありがとうございました。

当資料は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる場合がありますことを、予めご承知頂きますようお願い申し上げます。

当資料に掲載されているサービスおよび商品などは、株式会社アイネットあるいは各社の登録商標または商標です。

お問い合わせは、下記連絡先までお願い致します。

企画本部 経営企画・IR部 高宮、杉岡

TEL 045-682-0808

E-Mail infoir@inet.co.jp

URL <http://www.inet.co.jp>